

[施策名（設計方法の見直し）]

航路標識の監視のデータ伝送に携帯電話回線を活用

1. 具体的施策（担当部局 海上保安庁）

1) 工事の計画・設計等に関する施策

c. 設計方法の見直し

⑤ 航路標識用機器の小型化等

2. 施策の概要

灯台の灯火等を監視する装置については、従来、通信線路を必要とする有線監視システムを利用していたが、最近の携帯電話の急速な普及により、通信エリアの拡大が図られたことから、携帯電話を利用した監視システムを採用し、線路を要しない携帯電話回線の活用を図った。

3. 進捗状況、継続性

進捗状況：計画した事項を全て実施

継続性：計画した事項が一般化し、定着

4. 施策の効果（施策によるコスト縮減額）

自営線路にかかる費用が不要となり、さらに本体価格の低廉化が図られた。

縮減額：0.4百万円／箇所

縮減率：23%

5. イメージ図

